

歯科衛生士ってどんな職業なの？

歯科衛生士と歯科助手の違い

みなさんは、歯科医院に行くと、スタッフの方を歯科助手さんかと思われた事があるかと思えますので、簡単に違いを説明します。私たち歯科衛生士は、歯科衛生士国家試験に合格し、厚生労働大臣の歯科衛生士免許を取得して、歯科医師の指導の下に、大きく分けて、「歯牙及び口腔の疾患の予防処置」「歯科診療の補助」「歯科保健指導」を行うことが出来る国家資格を有しています。これに対し、歯科助手には、国家資格は有りませんが、最近では歯科助手の認定資格(民間)が有り、「歯科診療補助業務を行うための基礎について勉強をしました。」という証明をするもので、実際には歯科助手という仕事は、始めようと思えば誰でも始めることが出来ます。です。で、歯科衛生士と歯科助手の最も大きな違いは、国家資格が有るか？無いか？ということ。そして、患者さんの口腔内に直接触れていいのが歯科衛生士で、触れてはいけないのが歯科助手になります。

歯科衛生士の業務内容

先程もお伝えした通り、歯科医師の指導の下に、「歯牙及び口腔の疾

患の予防処置」「歯科診療の補助」「歯科保健指導」を行なっています。多くの時間を「歯科診療の補助」に費やしている事が多いのが現状です。ここでは、患者さんと歯科医師の間に入り、患者さんが先生に質問し易いように場を和ませたり、先生に診療がスムーズに行なえるように、患者さんの誘導や文字通り診療の補助や準備、片付けをしたりしています。「歯牙及び口腔の疾患の予防処置」では、歯石(歯ブラシでは取れない汚れの塊)除去やフッ素塗布などを行なったりしていますし、「歯科保健指導」では、お口の中の様々の病気をいろいろな方に知って頂き、それらを予防できるように説明しています。

当院での私たち歯科衛生士

当院歯科口腔外科では、地域医療連携の為、完全紹介状制をとっていますので、開業医より紹介された顎口腔領域の腫瘍、炎症、先天異常、外傷、嚢胞、口腔粘膜疾患、顎変形症、顎関節疾患、顎顔面インプラント治療、摂食嚥下障害などを主体に診療しています。したがって、私たち歯科衛生士は、様々な疾患に対して対応できなくてはなりません。更

に、周術期口腔機能管理と言って、がんの治療や手術を行う患者さんに対して、定期的な口腔ケアや指導を行なっています。また、外来に来られない入院中の患者さんに対しては、病室に伺い、往診で口腔ケアなどを実施しています。他には、私たち歯科衛生士みんなが分担して、他職種連携の面からも看護師に対して口腔ケアなどについての勉強会を行ったり、病院内にある様々なチームにも参加したりしています。

これからの歯科受診

みなさんは「8020運動」という言葉をご存知でしょうか？「8020(ハチ・マル・ニイ・マル)運動」は、「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という運動です。平成元年(1989年)に厚生省(当時)と日本歯科医師会が提唱して開始された運動です。生涯にわたり自分の歯でものを噛むことを意味し、「80」は男女を合わせた平均寿命で、「20」は自分の歯で食べられるために必要な歯の数を表しています。近年「8020」を達成している高齢者は増加しています。高齢者全体が増えていますので、「8020」を達成していません。

自治医科大学付属病院 歯科口腔外科
歯科衛生士 北方 恵美

高齢者も増加傾向にあります。また、人の歯の数は、多くても32本です。失っている歯は、本来有りませんが、「8020」を達成させるには、失っている歯は、12本以下になります。歯を失わないようにする為に、症状の無い時から定期的な歯科受診をお勧めします。そして、どの歯科衛生士も丁寧に説明してくれると思いますので、歯磨きの方法などについては是非尋ねてみて下さい。

